



童寶必讀  
文章類語

消息往來

全

數





名異月二十

正月

正月 孟春 大後



二月

仲春 如月 仲和



三月

三月 晚春 梅月



四月

初夏 卯月



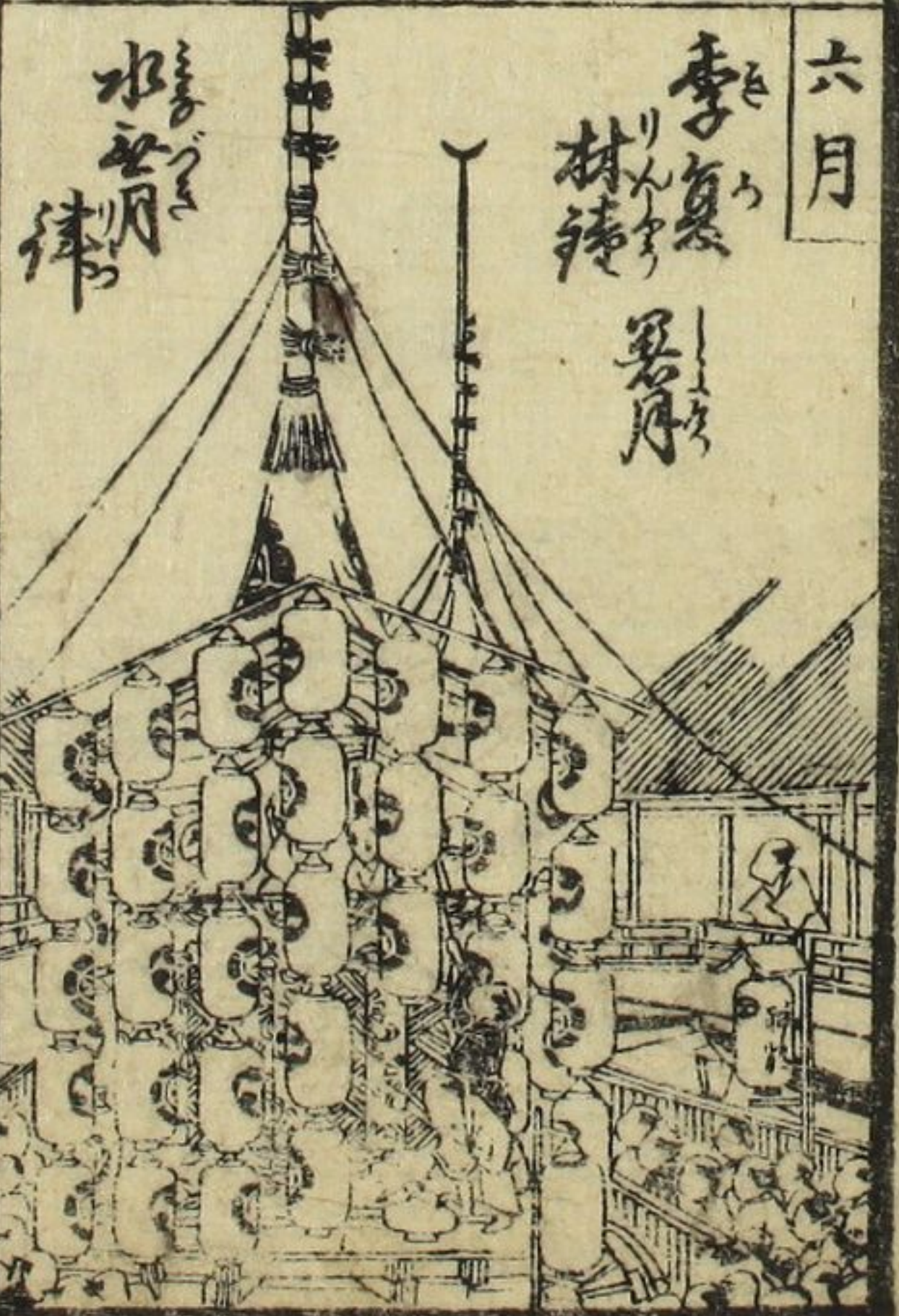
五月

仲夏 皋月 盛夏 芒種



六月

季夏 水月 霖月



七月

初秋 立秋 素秋



八月

深秋 樹秋 暮秋







消息陸来  
凡消息去通者信近而  
遠國不沾何事人間  
弟用達之元也先書狀  
紙板文字一筆培





貴賤  
書札認禮式

差別

一筆致等々  
左全の文  
字致等々の例より

○状字致等々の例より  
○書の下等へ若る  
○上書より状字致等と

○文致等々の例より  
○下官の友等の人へ  
○手紙の文致等々の例より

上仕致等々  
今私に致

中令書等  
梅等々

札状等々  
書等簡法

寄面書等  
紙等々

披刀致等  
後等々

信書等  
書等々

竹書等  
書等々

長書等  
書等々

署等  
書等々

書等  
書等々



夫より守拙を極む  
 書翰  
 後におもひたるを  
 秋の致す秋の民を  
 月夜を  
 山麓に私方より  
 るど書かば  
 ありてお成る  
 即時は返す  
 即ちおとす  
 のりて致の方  
 志くと月白書

不勝之心と天氣背  
 秋も残る秋も  
 冷氣相尋お増  
 向華甚寒  
 沚水と様  
 無様



拙と又お承  
 月字二知  
 ありて  
 書翰  
 ありて  
 ありて

遊沚  
 健安  
 望勝  
 別業  
 美心



○首尾結おぬ秋万葉  
一廣く山加増少中至  
目出度出候事お  
いその時よあべ  
武家おぬいへ生人  
家帯を針にあり進  
立身の原方に是原  
とまをたる板にさす  
○主人親か云付ま  
徳の云候よ主人推  
中付或云お交我あり  
ト云お板と書かす

只主人大候と申す  
お交何とトと身身  
と深く書かす  
○山折橋と云れ事  
云状小事れ事或  
健徳垂る事と候よ  
等墨承おと云へ  
おをす板と云れ事  
いと付べ  
○金部百疋の物種致  
と云と書かす  
法初穂金部百疋致

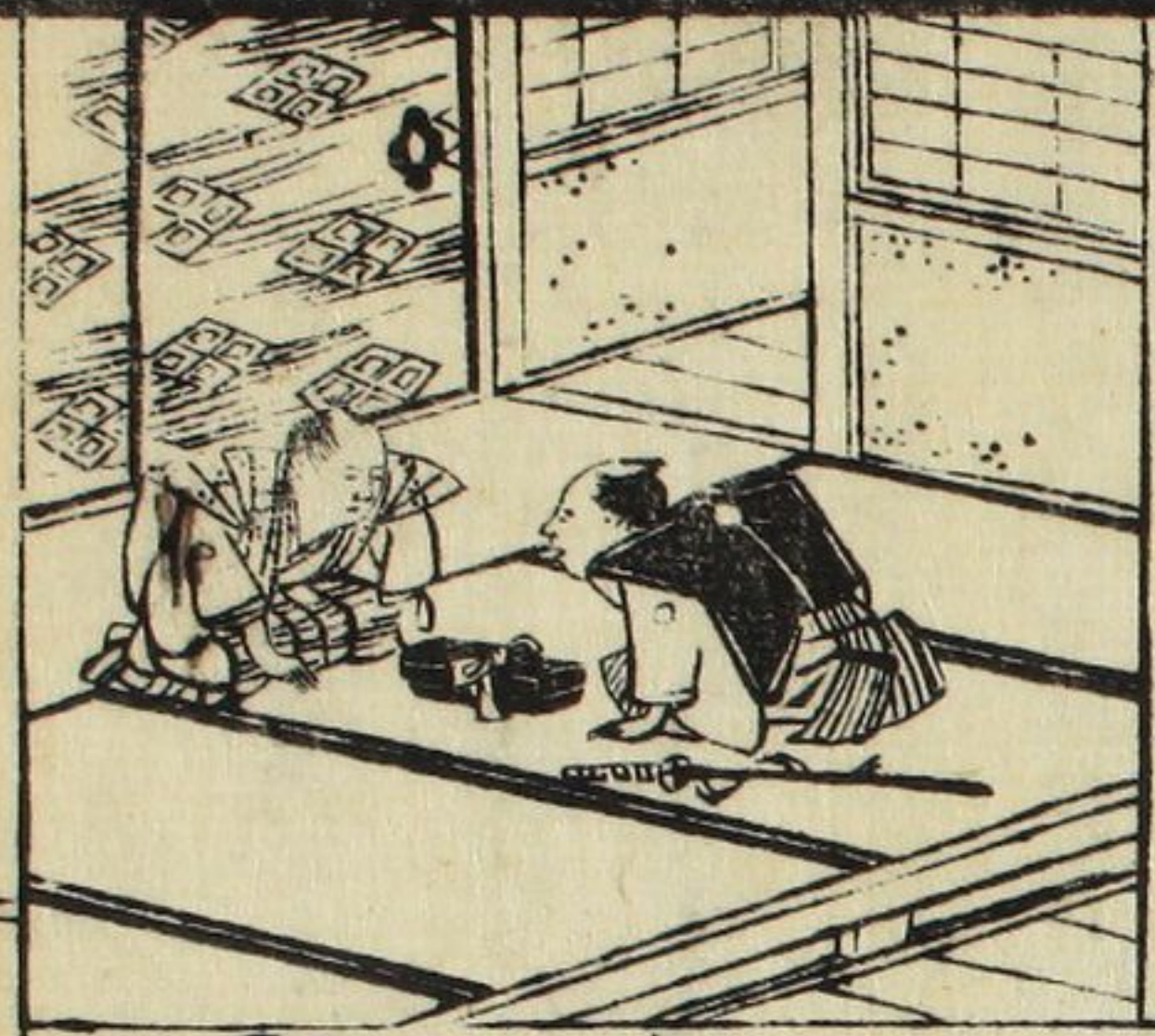
そのめと きん たり さまきく げ ぶ け  
主元事後也 扱云家武家  
奈名并所旗本自他  
國在事致在府交代勤仕  
是善漢中法橋慈悦目  
出度海事主人度人悦愛

謹悦祝 善法是過量一  
仲務事量任合所礼相候  
御目刃無洋世是部合能  
そ尾克事在所結構所然  
之所意被蒙作云候



進上と書へ  
 のしる字を成用へ  
 浄妙の心を念ふ  
 杯承の心に念ふ  
 か守徳を著し  
 用事成令更及  
 此の印を成用へ  
 守りも成用へ  
 守りも成用へ  
 守りも成用へ  
 守りも成用へ

二の字を下おし  
 けり  
 〇換りおし  
 〇換りおし  
 〇換りおし  
 〇換りおし



源志の徳を頌ふ  
 冥加玉の徳を頌ふ  
 未屑の徳を頌ふ  
 比叟の徳を頌ふ  
 月先の徳を頌ふ

今世の徳を頌ふ  
 今世の徳を頌ふ  
 今世の徳を頌ふ  
 今世の徳を頌ふ  
 今世の徳を頌ふ



○收し角一ツ書し幸い  
三ツ条の紙下はまうす  
○重宝と云ふは縁たむ  
と後物と云ふは重宝  
○方々に用ふ悦と云ふ  
重宝と針と云ふは  
重宝と針と云ふは  
但し紙の紙の紙の  
重宝と針と云ふは  
○流息と云ふは  
振ふ小中をたかへ  
續けらるるべし

の災を恐るるに  
只奉りし書  
女文抄に身がと  
人為能く息は  
續けと云ふは  
○重宝加と云ふは  
眞加お竹眞加  
と書べし  
○おのり退と云ふ  
板の板の板の板  
よりおのり退と云ふ  
○重宝加と云ふは

入来心も来駕柱心  
病解身訂の將亦  
隨る名將心  
清きまき友  
筆余心  
○重宝加と云ふは

その抄り  
伏見長清甲府後府山田  
目元浦  
筆美之  
公安  
○重宝加と云ふは



好の事<sup>よし</sup>成<sup>なり</sup>て其<sup>その</sup>徳<sup>とく</sup>之<sup>を</sup>  
 修<sup>しゆ</sup>むあまの事<sup>こと</sup>を漢<sup>かん</sup>字<sup>じ</sup>  
 余<sup>あま</sup>の目<sup>め</sup>れといふ事<sup>こと</sup>之<sup>を</sup>  
 心<sup>こころ</sup>をなむとて其<sup>その</sup>心<sup>こころ</sup>  
 好<sup>よし</sup>む事<sup>こと</sup>を修<sup>しゆ</sup>む事<sup>こと</sup>  
 人の名<sup>な</sup>成<sup>なり</sup>て其<sup>その</sup>徳<sup>とく</sup>之<sup>を</sup>  
 修<sup>しゆ</sup>む事<sup>こと</sup>を漢<sup>かん</sup>字<sup>じ</sup>  
 余<sup>あま</sup>の目<sup>め</sup>れといふ事<sup>こと</sup>之<sup>を</sup>  
 心<sup>こころ</sup>をなむとて其<sup>その</sup>心<sup>こころ</sup>  
 好<sup>よし</sup>む事<sup>こと</sup>を修<sup>しゆ</sup>む事<sup>こと</sup>



好<sup>よし</sup>む事<sup>こと</sup>を漢<sup>かん</sup>字<sup>じ</sup>  
 余<sup>あま</sup>の目<sup>め</sup>れといふ事<sup>こと</sup>之<sup>を</sup>  
 心<sup>こころ</sup>をなむとて其<sup>その</sup>心<sup>こころ</sup>  
 好<sup>よし</sup>む事<sup>こと</sup>を修<sup>しゆ</sup>む事<sup>こと</sup>

打<sup>うち</sup>たる<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>を修<sup>しゆ</sup>む事<sup>こと</sup>  
 心<sup>こころ</sup>をなむとて其<sup>その</sup>心<sup>こころ</sup>  
 好<sup>よし</sup>む事<sup>こと</sup>を修<sup>しゆ</sup>む事<sup>こと</sup>  
 心<sup>こころ</sup>をなむとて其<sup>その</sup>心<sup>こころ</sup>  
 好<sup>よし</sup>む事<sup>こと</sup>を修<sup>しゆ</sup>む事<sup>こと</sup>  
 心<sup>こころ</sup>をなむとて其<sup>その</sup>心<sup>こころ</sup>  
 好<sup>よし</sup>む事<sup>こと</sup>を修<sup>しゆ</sup>む事<sup>こと</sup>

用<sup>もち</sup>推<sup>おし</sup>し事<sup>こと</sup>を修<sup>しゆ</sup>む事<sup>こと</sup>  
 心<sup>こころ</sup>をなむとて其<sup>その</sup>心<sup>こころ</sup>  
 好<sup>よし</sup>む事<sup>こと</sup>を修<sup>しゆ</sup>む事<sup>こと</sup>  
 心<sup>こころ</sup>をなむとて其<sup>その</sup>心<sup>こころ</sup>  
 好<sup>よし</sup>む事<sup>こと</sup>を修<sup>しゆ</sup>む事<sup>こと</sup>  
 心<sup>こころ</sup>をなむとて其<sup>その</sup>心<sup>こころ</sup>  
 好<sup>よし</sup>む事<sup>こと</sup>を修<sup>しゆ</sup>む事<sup>こと</sup>



○我病と雨方に在る  
振く書六部不之  
○良自多事考之我  
と六部と家子と事  
○此後と事と事と事  
良息多事考之我  
事考之  
○此後と事と事と事  
良息多事考之我  
事考之

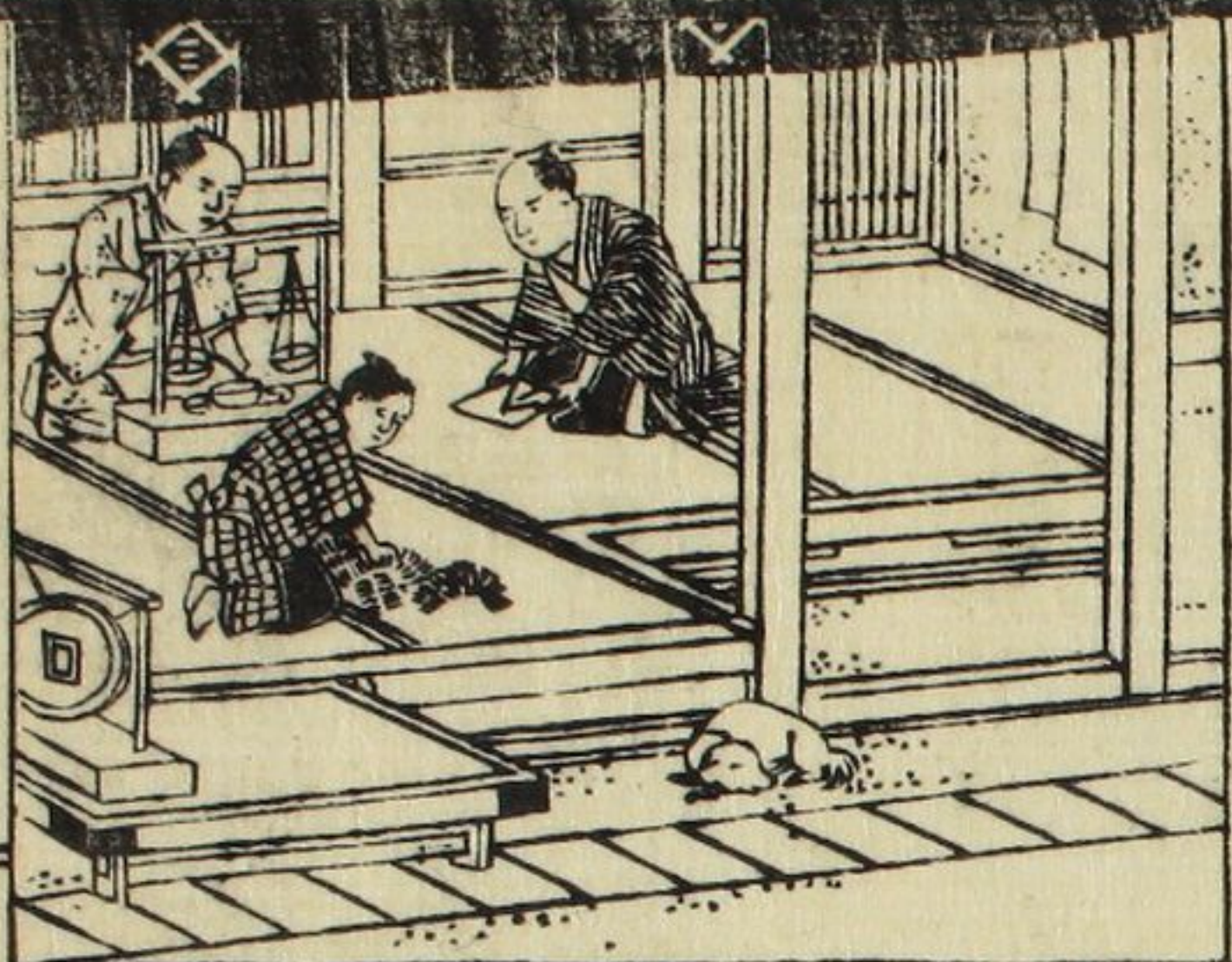
○細一尾振と振と小  
事考之  
○此後と事と事と事  
良息多事考之我  
事考之

多忍子速俄已度所刻  
若急おはれ村談接接會秋  
未和女老振舞振清清  
招月待月泊家合春春  
沙連老緩遊山樂野宅

望宿止老私宅抄書  
延為泊延席寤在疲勞  
望外也言宅老老法別  
莊家化著清遠作修後  
造美建老棟之極後後



のりあても後子まぐり  
 ○松茸一箱致す扱と  
 敷芝かた一扱と  
 り〜後少の賄致扱と  
 書を  
 ○乃時寺一袋束と  
 扱と芝かた道時  
 千飯束と紙餅一扱と  
 切く  
 ○書状と徳と六再  
 讀み〜  
 扱と束と花文と  
 扱と束と紙と味と  
 扱と束と紙と味と



○手紙の目録と  
 扱と束と紙と味と  
 扱と束と紙と味と  
 扱と束と紙と味と  
 の扱と束と紙と味と

綱補無昌松宗成之入夜  
 家督相續淡居之跡婿  
 年入猿胎妊娠若生  
 御降誕也生安若初成  
 長成人若冠若年若老

老後若用若所又若利  
 家業若職若骨若而若  
 悔忘若油の信若勘若若  
 末世若若用若若若若若  
 家業若職若骨若而若



○用事のてれ物も快中  
 又云と茶と愛ひひき  
 張書一は是る川  
 らふよあつて決せん  
 志紙被さるん  
 ○和字難きもの事  
 書くはよ無味味  
 字と推し行ふ又中  
 らふ事通す細弁  
 事につくあはるん  
 古時人よ意とん  
 徳めらるん考へ

○文才のたると巧に  
 古後旧文抄りて人の  
 知らるん文字とつひ  
 自らとるとあはるん  
 愚の事考へ  
 ○始るこが言下後  
 卑中してあはるん  
 時ハ身終とあはるん  
 ありんか文法は  
 礼と云ふは  
 懇親と云ふは  
 書札式年

半伴快種本高規金銀  
 賞賞辨也ふ兼私不給  
 貸借の目元は元元  
 送状の形は物も物  
 仕定は再再再再再  
けん せん とう ぎ かね ぎん くり  
 しょう しょう べん ぜい けん せき せき  
 かいく せうてい ぶつ ぶつ  
 しぎん ざん さい さい さい さい さい

古後之借位律義字也  
 綿益取綿年首皆淵田  
 今酒を新小判に換は  
 旅者教は是後以後  
 用定と物運送指運定  
ふ さい ぐま せう ぎ じ  
 しめ くり くり くり くり くり  
 きん ちゅう せう せう せう せう  
 りょう ぎょう せう せう せう せう  
 ちよう せい ぶつ ぶん せう せう



自他 称号 異名盡

賢母	人母	長母	我母	親父	我父
	令母		家母	親父	家父
	小堂		老母		老父

兒	長兒	人兒	玉兒
家兒		令兒	
貧兒		賢兒	



在日庵人足傳鳥宿港院  
 貨酒代洋墨徑來遠中意  
 不斗多好音遠近迎先傳  
 食之受之新味海江瑞物云  
 幸未半生春夜夜夜夜可悟

嗟乎方寸堪悲折柳樽外  
 不思奇天氣故步以我從  
 國傍之志事及湯美家為  
 美人相育休更秋更夜法  
 曉在叔母家夜更用世為高



人妻	荆婦	妻	人妹	妹	人姊	姊	貴女	人弟	弟
令室	陋婦	良妻	令妹	令妹	令姊	家姊		令弟	令弟
一心		荆妻			一姐	一姐		賢弟	賢弟

武藝之業後物續之也  
 後法也古之修也  
 令支雜病身世作厄家  
 內親類一家門親族  
 後類中緒眷屬家本在

子	人子	子	人子	人子	子	子	子	子	子
子	子	子	子	子	子	子	子	子	子
子	子	子	子	子	子	子	子	子	子

僕婢朋友侍等君  
 所範師道奉補物志  
 遠山亦法也音育奉  
 氣之毒矣迷惑也預  
 弟者死御之老死礼



人門	卑族	家門	人婿	中子	婿	賢兒	化人	繁
令姓	親族	徽族	令婿		小婿	貴雨	安忍	印
也族		族里	佳婿		子婿	子婿	子婿	

使札法使名代上正漢  
 辭後儀名類拜親也親  
 之面面得如之態肉之卷  
 也德取為手更納為書以  
 御之書也後若常難海經

我家	私家	人家	佳屋	家園	人園
場令	拙宅	也家	玉樓	後里	賢府
務屋		也家		贊心	也地



取之腹取方事例氣也病  
 年煩頭痛種物日端出氣  
 後史後養生智之池業也  
 相夜本後加持初務以系  
 生職奉之何公推系也望



九華	雜尾	麻	銀粟	玄鑿	水焙	茶	眞素	酉水	酒
	白羽	五明		葉菊	乾因	電芽	雲象	碧香	竹葉
	雲雀	仁風		磁煤	綠花	方桂		白玉	紅明

所宜拙者私素憚始足身  
 姊妹伯父叔母後身甥姪  
 孫者孫玄孫胤替後孫男  
 姑舅養子婿嫁女為孫孫  
 宗雅重親父孫久性而信

紙	粉粘	松生	筆	素毫	奴素	雲	觀	燭漢
素毫	錢尺		爰城	赤竹		松腹	松香	
竹串	玉板		扇絲	深絲		油乾	墨池	

壬之始者丙是身史之  
 枕史傳之生純神為外保  
 後身之生素史札素細史  
 兼如能勤行寧入法會及  
 史及身國史史神初者史



牡丹	棠	限季	菊	霞	梅	鳳尾	竹	翠骨	松
花王	吳香	其谷	金英		清霽		比君		云木
魏紫	七餐		杖者		冰雪		秋源		紫梅

痛入子遺くま身み寸喉すゝ後のち基もと  
 此こ道みち友とも志し重おも重おも重おも重おも重おも重おも  
 物もの後のち影かげ似に他た巧たく尔に出で亦また余また念おも養やう  
 同どう伴ばん同どう道みち落お引ひ徒た也や新しん  
 春はる年ねん始はじ改か其その政せい騰と御ご慶けい者しや

錢	至	朱丹	鴉	子規	熊	巧舌	管	舞	瘡
鷓鴣	左白	煥記	錦香	親愛	杜宇	嬌舌	芙蓉		伽舍
琴瑟	脱胎		德會		蜀魂		芙蓉		丹秋

昔むかし者しや北きた車くるま納の花はな奇き乃の之の盡じん  
 始はじ後のち治ち休ひ約やく心こころ在あ住す例れい也や也や  
 彼か往わう矣や未ま知し何なに上かみ之の獨ひとり年ねん七しち夕しゆ  
 八はち初はつ主しゆ湯たう未ま知し得え其その花はな葉は葉は葉は  
 年ねん虎こ當たう會かい其その式しき七しち程ぢやう難なん識しき



元日	糖因	者区
正月	三元	元正
正月	重三	修祿
正月	流錫會	曲水節
正月	桃花節	
正月	端午	至五
五月	艾蒿	地臘
七月	七夕	巧夕
七月	七夕	星會
七月	七夕	乞巧

星人魂招精是云其招供  
 物初穂燒者看控四向勢  
 配招次食應律掃料理客年  
 至穉子之精法往人世後收贈  
 中働子為種之物數方好物

重陽	重九	陽九
九月	菊花	茱萸
九月	歲暮	除秋
九月	歲尾	曆終
九月	吉日	教因
九月	吉日	初辰



珠味貴瓶味酒專飲訂  
 沉味尾毫並後出即節目  
 流石心致者端可奉穂便  
 張密頼頼希合貽得公  
 許言星邊背何奉備入歲



席上書字畫

鳳鳴	清泉	慶壽	風清	英雄	賞岳	天長	忠孝
龍吟	松陰	歸厚	麟鳳	雲窓	野恩	地久	仁義
對鶴	連登	和樂	龜龍	霧客	菊古	龍虎	廉恥
漱流							

皇義長其先世之遺教  
 序之幻寂露法執成思石  
 寄之海岳多生之忘苦念芽  
 意樹法自法也叔以從中  
 送法執上進上之至寶中法

花烟	舞糖	關花	珠嘉	山靜	龍吟	碎月	芝索	觀深	嶽香
雅游	樓霞	清輝	錦雲	月石	虎嘯	玄圃	玉樹	敬德	對鶴
荷風	潛龍	樂賢	誠義	煙篁	坐茗	積玉	蓬萊	漁樵	漱流

別補若何發性少輕微世  
 少可志平計法修好入部  
 約列也煖解集茶法  
 幸會性廉猶法製不相  
 始不私教與方內家肉依



不如字	卷勢壽	芝葉室	林松淵	波上醜	仁者步	思委邪	千丈松	翰墨林	松雅堂	南山壽	遊方外	竹林眠	炭上雲	山水友	花源碑	天地人	福祿壽	桂樹溪	明月輝
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

毒必潤市なきは精縁組  
 法納控平往登城河加信  
 河及給立麻衣身生を  
 家在補儀波活券状奉為  
 家柄為河統依為出款河太



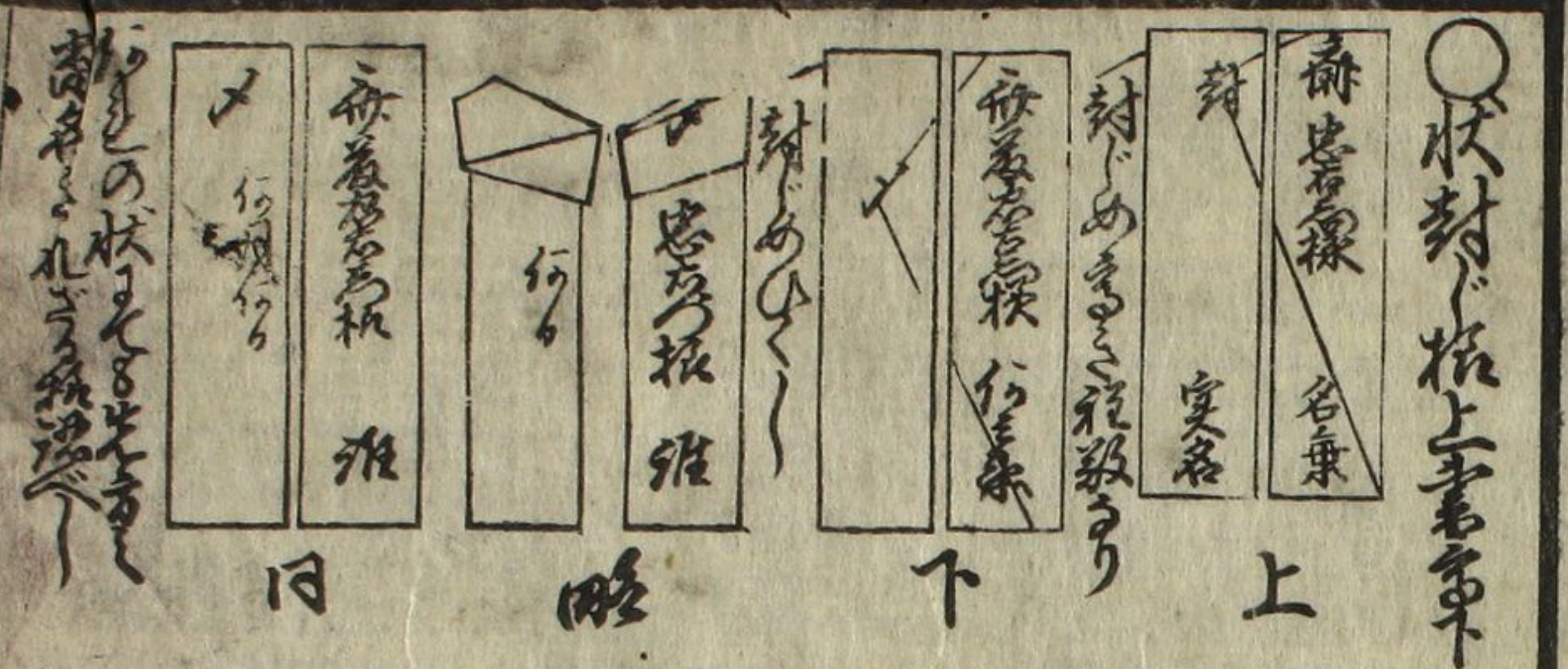
實告仁	常無居	學子厥	教不倦	雙白鶴	宿早栲	謹而信	守靜葛	多時惑	安平泰
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

刀腰御馬一丈頂戴投  
 橋者二種一物法者時波  
 在後也法廣形者永湯  
 身期申述中法中惡惶  
 謹言以受對白不侮空



梅柳渡江春  
 雪花對孤琴  
 清風在竹林  
 竹乾掃秋月  
 雲散一樹松  
 夢夕是安人  
 壺中日月長  
 流玉葉之長  
 錦秀千年樹  
 飛遊萬代池

高家性来 寺子教訓書  
 諸職性来 全  
 續消息性来 近刻  
 兼原為漢先生編  
 世結千字文 全  
 天保十四年卯秋發版  
 京都寺町通松原上町  
 諸書物仕入所 菊屋七郎左衛門



和漢之書藉神傳  
 後茶紙性来  
 下巻



